

## 令和2年 11月臨時会 市長所信表明

11月臨時会の開催に当たりまして、所信の一端を申し上げますとともに、今議会に提案いたしました議案の概要につきまして、御説明申し上げます。

私は、「行政に、私たちは見えていますか」「行政に、私たちの声は届いていますか」という、市民の声なき声に耳を傾けていきたいと思っています。

市政の主役は市民、税金は市民のものであり、税金の使い方、使い道を決める時には、市民の皆様と行政とが同じ目線で同じ方向を向いて、市民の皆様のお声を十分に聞き、市民の皆様の御理解と御納得のいただけるものでなくてはならないと考えております。

市政の役割は、地域で生まれ、地域で育ち、地域で学び、地域で働き、地域で暮らし、地域で老後を迎え、やがて終末を迎える。

時には、様々なリスクにも直面する人生のあらゆる局面において、「岡崎市はいつでもあなたのそばにいますよ」「誰一人置き去りにしませんよ」と、市民お一人お一人に徹底的に寄り添い、市民の皆様の夢や希望の実現、しあわせづくりを行政の立場で、全力で応援させていただくことだと思っています。

そんな思いで、3年前、国会を離れてから地域をまわり、岡崎市内全域でお聞きをした市民の生活の声、生の声、現場の声を集約したものが、私が選挙で掲げた1つ1つの公約です。

その中でも、特に今年に入ってから、すべての市民がコロナで苦しんでいる姿を見てまいりました。コロナはまさに激甚災害。自助や共助では乗り越えられず、まさに行政による「公助」が必要不可欠なものと考えております。

このあと提案させていただく「岡崎市民応援給付金」は、コロナ感染の不安やストレス、息苦しさ、企業倒産、廃業、事業縮小、売上減、解雇、雇い止め、内定取消、収入減少、学校休校等による子どもへのストレス、学習の遅れ、そして自殺に追い込まれかねないコロナの影響から市民生活を守るため、あるいは、人との接触や対面を避けることができずにコロナの感染リスクに向き合い続けておられる、医療、保健、介護、福祉、保育、消防、衛生など、いわゆるエッセンシャルワーカーと呼ばれる人たちを支援する福祉的性格を有するとともに、コロナから地域経済を守る 経済対策でもあります。

来年度の税収が減ると言われています。なぜ減るのか。コロナだからです。だから、大胆な追加的コロナ対策をやらなければ、税収は減るばかりです。

コロナで疲弊しているのは、税収の源である、市民、民間です。

だから、市民の可処分所得を増やし、市民、民間にお金をまわし、好循環をつくる。それが、私が提案する「岡崎市民応援給付金」であることを是非ご理解願いたいと考えています。

このように、今までは在野にいて、市民のお声をお聞きをしてみましたが、市長に就任した今日は、同じく市民の代表であり、市民の代弁者である議員、議会の皆様の御意見も十分お聞きをし、政策に反映していかなければならないという思いで、この初の市議会に臨ませていただいております。

それでは、本議会に提案をいたしております議案について説明をさせていただきます。

提出させていただいております議案は、3件ございます。

その他議案といたしまして、学校用のタブレット端末の買い入れに関する「物品の取得」を1件と、岡崎市監査委員の選任に関する人事議案1件を提案させていただいております。

次に、補正予算議案であります。一般会計で、9,796万7千円の増額補正をお願いしております。

衛生費につきましては、新型コロナウイルス感染症に関する相談窓口の「帰国者・接触者相談センター」を廃止し、「受診・相談センター」を設置するための派遣手数料及び委託料の計上などをお願いしております。

さらに追加提出予定の議案では、私の公約であります、新型コロナウイルス感染症対策として、全市民お一人あたり5万円の給付、小中学校における30人学級の実施検討会議の設置、私自身の給料の減額などに関する条例及び補正予算議案をお願いさせていただきます。

以上が、今議会に提案をいたします議案の大要であります。

以上、御説明を申し上げますとともに、提出をいたしております諸議案につきまして、よろしく御審議の上、御議決を賜りますようお願い申し上げます。説明を終えさせていただきます。

ありがとうございました。